
童話「白雪姫」

青い鴉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

童話「白雪姫」

【Nコード】

N3828T

【作者名】

青い鴉

【あらすじ】

女王視点の白雪姫です。pixivより転載。

私は魔法の鏡を覗き込んで言った。

「鏡よ鏡。この世で最も美しい者は？」

「それは白雪姫でございます。その肌は名前の通り白雪のよう。その美しさは女神の如きこと！」

それで、私は娘を殺そうと思った。

「獵師よ獵師。白雪姫を殺しなさい」

私は命じた。だが獵師は兎の心臓を持ち帰ってきた。

「この戯け者が。私がお前の嘘を見抜けぬと思ったか」

私は命じた。獵師の死を。

私は森に分け入った。小人たちと暮らす娘を見た。少し心が痛んだが、もう私は引き返せない。魔法で老婆に化けて、娘を騙した。

「このリンゴをお食べなさい」

私は言った。娘は何の疑いも無く毒入りのリンゴを齧り、ころりと死んだ。あっけなかった。戻って来た小人たちがどれほど悲しもうと、私の知ったことではない。

もう娘はいない。だが私は満足できなかった。

私は時とともに己が醜くなっていくことに恐怖した。

ある時、自分が醜い老婆に成り下がる夢を見た。夢の中で、私は井戸に身を投げて死んだ。それ以来、私は食事を取らなくなった。私は次第にやつれていった。

私は魔法の鏡を覗き込んで言った。

「鏡よ鏡。この世で最も美しい者は？」

それは愚かな問いだった。今の自分より美しい者などいくらでも

いる。だが、私はついに問わずにはいらなかった。どんな名でもよい。その名を聞けば、また生きる望みが湧いてくると信じた。
「それは白雪姫でございます。その目覚めは春の訪れのように。異国の王子と結婚し、それはなんと幸せなこと！」
私は絶叫し、半狂乱になって鏡を床にしたたかに叩き付けた。鏡は割れた。

私は、自ら毒を飲んで、死んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3828t/>

童話「白雪姫」

2011年10月9日03時26分発行